

●平成 28 年度版

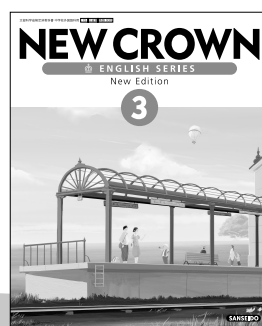
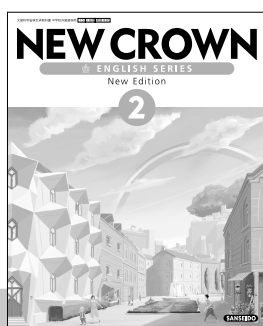
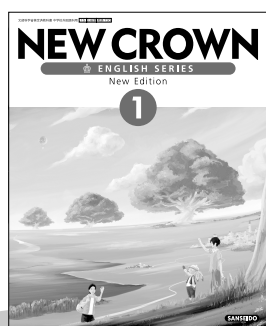
NEW CROWN



ENGLISH SERIES

New Edition

使い方ガイド



もくじ

■ Lesson から Project までの授業展開例	2
■ Lesson—GET の使い方	4
USE Read の使い方	8
USE Write の使い方	12
USE Speak 発表 の使い方	14
USE Speak 会話 の使い方	16
■ Let's Listen の使い方	18
■ Let's Talk の使い方	20
■ Project の使い方	22
■ 各種サポートのご案内	24

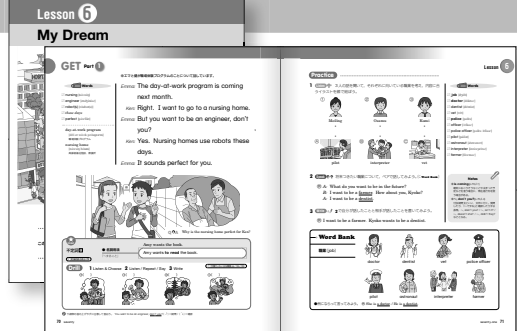
三省堂

LessonからProjectまでの授業展開例

Lesson

とびら・GET Part ①・GET Part ②

2時間(とびら・GET Part ①)
+2時間(GET Part ②)



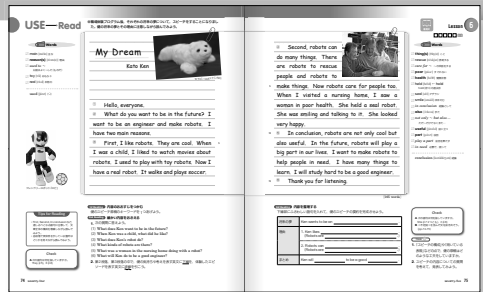
ここでやること

- Lessonの学習の動機づけ
- 文法/語句の導入, 練習
- 本文の内容理解, 音読・暗唱

詳しい使い方はp.4へ

USE Read

2時間



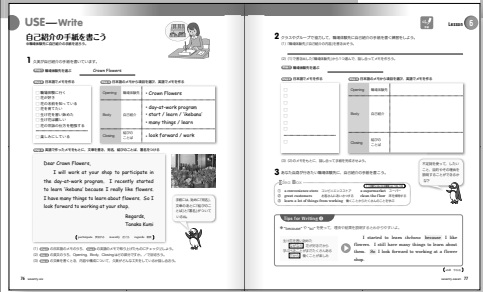
ここでやること

- 「読むこと」に特化した活動
 - 長文の読解
- 概要把握 / 詳細理解 / 整理

詳しい使い方はp.8へ

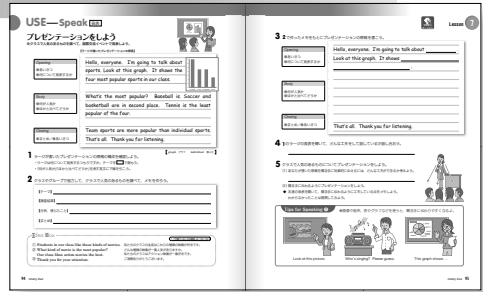
USE Write

2時間



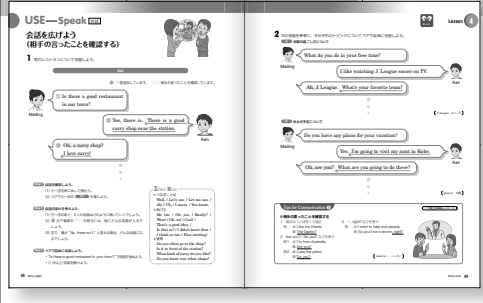
USE Speak 発表

2時間



USE Speak 会話

1時間



ここでやること

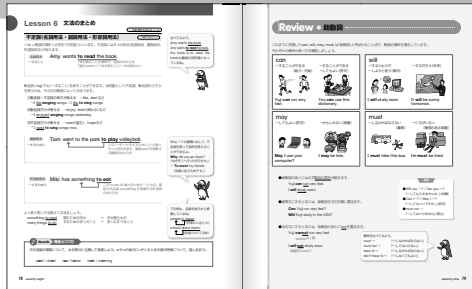
- 「書くこと」「話すこと」に特化した活動
- 各Lesson, 次の3つのうち1つを扱っています。
Write / Speak 発表 / Speak 会話

詳しい使い方はp.12, 14, 16へ

※各パートの授業展開などは、2年のLesson 6, Let's Listen 5, Let's Talk 6, Project 2を例に、このあと詳しく紹介します。

まとめ / Review

1時間



ここでやること

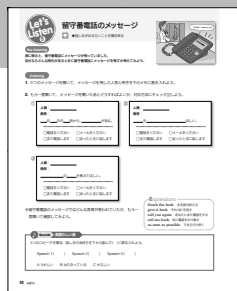
- 文法の整理
- 文法を図解で確認

1時間配当ですが、特に授業展開例は示していません。1時間でLessonの振り返りをする、GETの時間内で触れる、自学自習に回す、など弾力的に活用してください。

Let's Listen / Let's Talk

Let's Listen

1時間



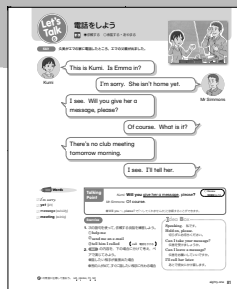
ここでやること

- オーセンティックな場面でのリスニング
- ねらいにあった聞き取り

詳しい使い方はp.18へ

Let's Talk

1時間



ここでやること

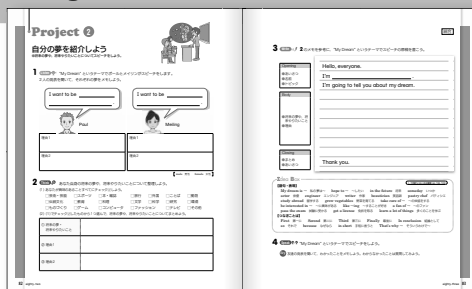
- 日常生活における会話表現の導入
- スキットづくり・会話練習

詳しい使い方はp.20へ

Project

Project (2~3レッスンごとに行う)

2時間



ここでやること

- プロジェクト活動
- 複数技能の統合的な活動

詳しい使い方はp.22へ

Lesson—GETの使い方

1. 特長

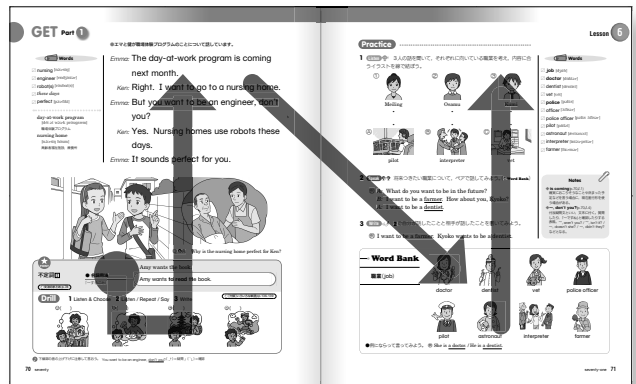
- 基礎的・基本的な知識・技能を習得します。
- 基本文 (POINT) のしくみを学び、練習します。
- 短く明確な本文なので、新出文法や語いの習得に集中できます。

2. 指導スタイル別コースガイド

① ボトムアップ型A

文法と語句・表現を導入し、本文の内容にふれながら言語材料を固めていきます。そのあとに、アクティビティを行うという流れです。

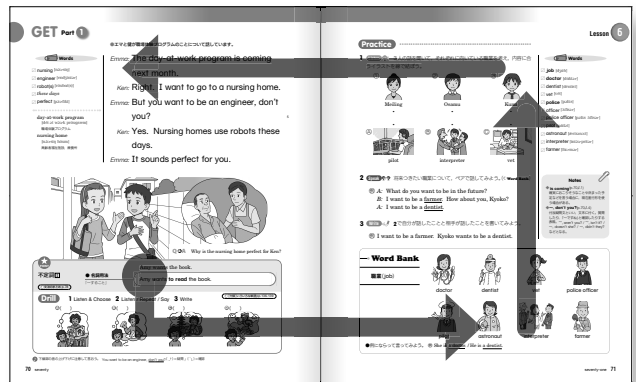
POINT + Drill ⇒ Words(左頁) + 本文
⇒ Word Bank + Words(右頁) + Practice



② ボトムアップ型B

文法と語句・表現をおさえてからアクティビティを行います。言語材料がある程度定着してから、本文の内容へという流れです。

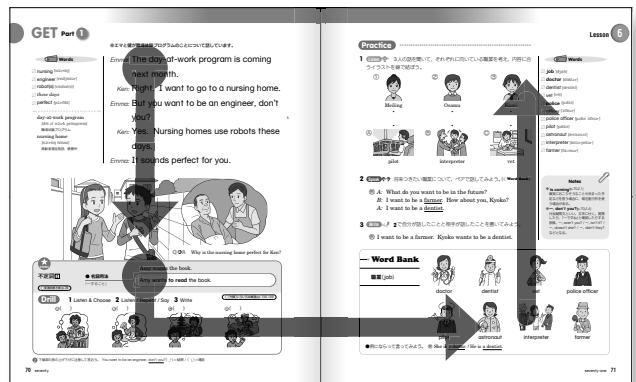
POINT + Drill
⇒ Word Bank + Words(右頁) + Practice
⇒ Words(左頁) + 本文



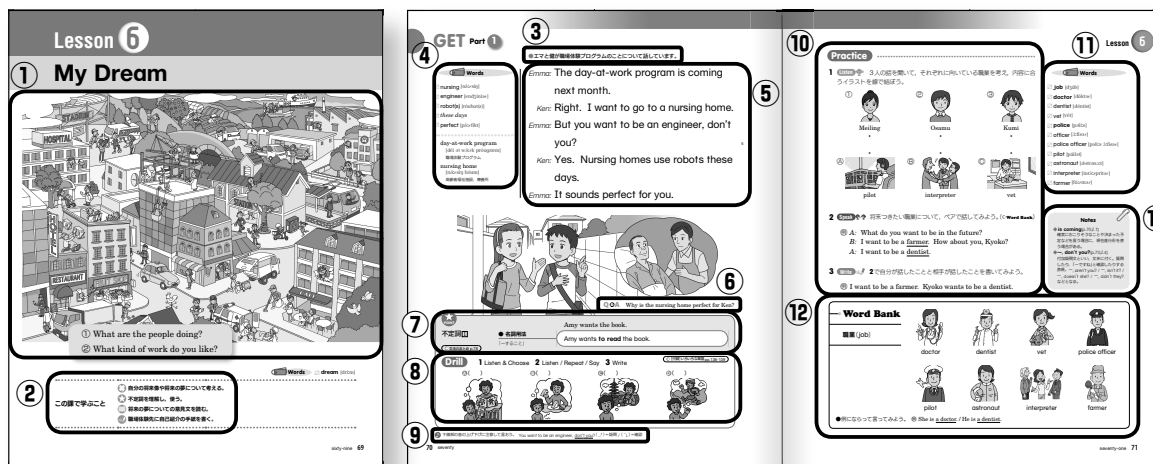
③ トップダウン型

まず、本文の内容を導入します。そこで出てきた文法を取り出しておさえ、アクティビティを行うという流れです。

Words(左頁) + 本文 ⇒ POINT + Drill
⇒ Word Bank + Words(右頁) + Practice



3. 名称・機能, 補充教材



とびら

GET

- ① **とびらの写真・挿絵** Lessonで扱う題材に関する写真・挿絵です。学習への意欲や動機を高めたり、題材や内容につなげたりできる問いがあります。
- ② **この課で学ぶこと** Lessonの題材・言語材料・言語活動のねらいを提示しています。
- ③ **リード** 本文の場面設定を提示しています。
- ④ **Words** 本文中の新出の語句や表現です。点線より上の語が必修語です。
- ⑤ **本文** 30~40語程度で構成しています。
- ⑥ **Q&A** 本文の内容確認をする問いです。
- ⑦ **POINT** GETで学習する新たな基本文です。文法や文構造のポイントでを提示。
- ⑧ **Drill** 基本文を、繰り返し練習します。
- ⑨ **Sounds** 本文音読のポイントを確認し、練習します。
- ⑩ **Practice** Drillで身につけた基本文を、短い文脈の中で活用し、練習します。
- ⑪ **Words** Word Bank・Practiceの新出の語句や表現です。
- ⑫ **Word Bank** 基礎的な語いをカテゴリーごとにとまとめています。Practiceの「話す」「書く」活動の中で使うことができます。
- ⑬ **Notes** 必要に応じて、題材の背景情報や語法解説を掲載します。

★補充教材

- **Words / POINT / Practice / 文法のまとめのワークシート**(教師用指導書ワークシート集・指導用データ資料DVD-ROMに収録/文法のまとめのワークシートはデータのみのご用意となります)
- **とびら・本文の補充発問例**(教師用指導書指導編に収録) ● **アクティビティ アイディア集**(別売)
- **題材資料集**(デジタルデータは会員制サイトよりダウンロードできます)

4. 授業展開例 (2年Lesson 6—とびら・GET Part 1：ボトムアップ型Aを例に)

DAY 1

段階

活動内容

プレ活動

10分



ウォームアップ／前時の復習

プレ活動／この課で学ぶこと

- ・とびらの挿絵を用いてオーラル・イントロダクションを行い、職場体験について関心を持たせる。
- ・『この課で学ぶこと』の意識付けを行う。

文法の
導入・練習

15分

POINT／Drill

- ・Drillのイラストを用いて、オーラル・イントロダクションで基本文を導入する。
- ・基本文の意味と文のしくみを理解させる。
- ・Drillで、基本文を繰り返し練習させる。

語句の
導入・練習

5分



Words

- ・新出の語句や表現の意味を確認させる。
- ・新出の語句や表現の発音練習をさせる。

本文の導入

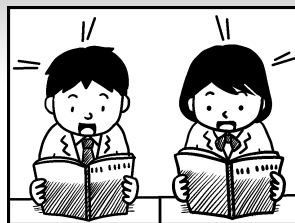
10分

リード／本文

- ・リードを用いて、本文の場面を推測させる。
- ・挿絵を用いて、オーラル・イントロダクションを行い、本文の内容に触れさせる。

本文の
理解・音読

10分



Q&A／本文／脚注のSounds／まとめ

- ・Q&Aで本文の内容を確認させる。
- ・Soundsで音読のポイントを確認し、音読させる。

Chorus reading → Buzz reading →

Individual reading → Read and look up

指導 Q&A

Q1. Drill はどのようなタスクになっていますか。

A1. [1 Listen&Choose] は、聞こえた英文とイラストを一致させます。[2 Listen] は、文を聞いてイラストの内容と一致させます。[2 Repeat] は、文を聞いて繰り返して言います。[2 Say] は、イラストを見て文を言います。[3 Write] は、イラストを見て文を書きます。

DAY 2

段階

活動内容

復習

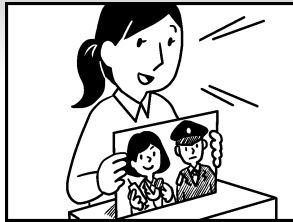
10分

ウォームアップ／前時の復習

- ・前時に学習した語句や表現、文法事項を復習させる。
- ・前時に学習した本文の復習と音読をさせる。

語句の
導入・練習

7分

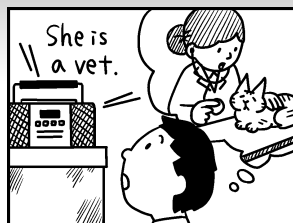


Word Bank／Words

- ・Word Bankの挿絵を用いながら、新出の語句や表現の意味を確認させる。
- ・新出の語句や表現の発音練習をさせる。
- ・提示の活動や基本文を使って練習させる。

聞く活動

8分



Practice 1 Listen 🎧

- ・CDを2回聞かせ、3人が向いている職業について聞き取らせる。
- ・3回目では、詳細な内容についても聞き取るよう指示を出して聞き取らせる。

話す活動

12分



Practice 2 Speak 🗣️

- ・例文をクラス全体で音読する。
- ・個々で何を言うか考えさせる。
- ・ペアになり、将来自分がつきたい職業について、話し合わせる。相手の言ったことをメモさせる。
- ・相手を変えて、複数回行わせる。

書く活動

13分



Practice 3 Write 📝 / まとめ

- ・Practice 2でとったメモをもとに、例文を参考にし、文を書かせる。
- ・グループになり、グループ内でそれぞれの文を確認させる。

Q2. Word Bank について、Practice や Words との関係、活用のしかたを教えてください。

A2. Word Bank の新出語句は Words にまとめてあります。その一部は Practice の 1 (Listen) に出てきたり、Practice の 2 (Speak) や 3 (Write) で使うことができます。また、このあとの言語活動で繰り返し使うことにより、語句・表現の定着をはかれます。

Lesson—USE Readの使い方

1. 特長

- GETで身につけた文法などの知識を活用して、長文を読む活動をします。
- まとまった量の英文の読解を通して、文章の「読み方」が身につきます。
- 内容のある文章を読み、考える力を育みます。

2. 指導のヒント

① 本文の内容に入る前にすること

- ・ 題材に対して、生徒がすでに持っている知識を引き出す。
- ・ 教科書の本文のタイトルや写真などから内容を推測させる。
- ・ 新出の語句や表現を導入する。

② 内容を読み、内容理解のためにすること

- ・ 複数回読ませる。
- ・ 読むたびに、目的を変え、目的を意識させて読ませる。
- ・ 「大づかみに内容を把握する」⇒「細かい内容を理解する」の順に指導していく。

③ 内容を読み、大体理解したあとにすること

- ・ 本文の内容を整理する。
- ・ 本文の内容の要約文づくり。
- ・ 本文の内容について意見や感想を伝え合う。

④ いろいろな読み方

《ジグソーリーディング》

- ・ 本文を段落、ページ単位で区切り、生徒に分担します。それぞれが内容理解をして各グループで持ち寄り、全体の内容を把握していく。協働学習に向いている。

《スラッシュリーディング》

- ・ 文中の意味の切れ目に、スラッシュ「/」を入れて、意味のかたまりを意識させながら読んでいく。直読直解の力がついていく。

⑤ GET と USE Read の本文の位置づけと学び方の違いについて

	位置づけ	生徒の学習
GET	① 文法や語彙の導入・習熟のための素材	新出の文法や語彙の確認、音読・暗唱によってインテイク
	② リスニングのスクリプト	オーラル・イントロダクションで内容理解したあと、文字で確認
	③ 表現のモデルとしての素材	本文を参考にしてアウトプット
USE Read	① 読むための素材	黙読による内容理解
	② 人間教育的な素材	題材内容について考える

3. 名称・機能, 補充教材

1 USE—Read 指導用録音プログラムは、それぞれの授業の場に応じて、スピードすることとなります。適切な授業ペースに合わせ、スピードを調節してください。

2 Words
 dream [dri:m] 夢
 reason [ri:zn] 理由
 want to ~ 望むこと、～したい
 toy [tɔi] 玩具
 read [ri:d] 読む
 need [ni:d] 必要

3 My Dream
 Kato Ken
 Hello, everyone.
 What do you want to be in the future? I want to be an engineer and make robots. I have two main reasons.
 First, I like robots. They are cool. When I was a child, I liked to watch movies about robots. I used to play with toy robots. Now I have a real robot. It walks and plays soccer.

4 1st~3rd Reading
 1. What does Ken want to be in the future?
 2. What was Ken as a child, what did he like?
 3. What does Ken's robot do?
 4. What kinds of robots are there?
 5. What was a woman in the morning home doing with a robot?
 6. What will Ken do to be a good engineer?

5 Tips for Reading
 1. Read the text and underline the words you don't know.
 2. Write down the words and their meanings in your notebook.

6 Check
 A robot is a machine that can think and feel like a human.
 They are very useful.

7 Think
 What do you think about the future? Will there be more robots in the future? Why or why not?

8 Lesson
 Check the words you learned in this lesson.
 1. Ken wants to be an _____.
 2. Robots are _____.
 3. Robots are _____.
 4. Ken will _____ to be a good _____.

9 Words
 thing [θɪŋ] こと
 rescue [ri:skju:] 助け
 poor [pu:] 貧乏
 health [helθ] 健康
 smile [smail] 笑顔
 in conclusion [ɪn kən'klu:ʒn] 結論として
 also [ɔ:lso] とも
 not only ~ but also ~ 不但～而且～
 play a part [plei ə pɑ:t] 役割を演ずる
 in need [ɪn ni:d] 必要
 study hard [stʌdi ha:d] 勉強を頑張る

- ① **リード** 本文を目的を持って読むために、場面設定を提示しています。
- ② **Words** 本文中の新出の語句や表現です。破線より上の語が必修語です。日本語の意味を提示してあります。
- ③ **本文** とびら・GETからの流れやつながりが強く、また、Wordsで新出の語句や表現の意味の提示により、最初から読みに徹した指導が可能です。
- ④ **1st~3rd Reading** 読む際のタスクです。「内容のおおすじをつかむ」→「細かい内容をおさえる」→「内容を整理する」という流れで取り組みます。
- ⑤ **Tips for Reading** 読み方のコツを提示しています。
- ⑥ **Check** 代名詞の示す内容を確認したり、文法を振り返ったりします。
- ⑦ **Think** 読んだあとのタスクです。内容を整理したり、本文の内容に対する生徒自身の考え方を引き出したりします。
- ⑧ **チェック欄** 黙読や音読などの活動回数をチェックします。
- ⑨ **本文語数** 本文の総語数です。段階的に増えていきます。(1年生：100語程度/2年生：200語程度/3年生：300語程度)

★補充教材

- **Wordsのワークシート**(指導用データ資料DVD-ROMに収録)
- **USE Readのワークシート**(教師用指導書ワークシート集・指導用データ資料DVD-ROMに収録)
- **本文の補充発問例**(教師用指導書指導編に収録/デジタルデータは会員制サイトよりダウンロードできます)
- **題材資料集**(デジタルデータは会員制サイトよりダウンロードできます)

4. 授業展開例 (2年Lesson 6—USE Read)

DAY 1

段階

活動内容

プレ活動

10分



ウォームアップ／前時の復習／プレ活動

- ・ USE Readにある写真を使い、ロボットについての背景的知識を活性化させる。

語句の導入

10分

Words

- ・ 新出の語句や表現の意味を確認させる。
- ・ 新出の語句や表現の発音練習をさせる。

本文の読解

20分



1st Reading

- ・ 黙読し、「キーワード」をペアで確認させる。
- ・ クラス全体に問いかけ、数名に発表させる。
- ・ CDを聞いて、キーワードを聞き取る。

2nd Reading

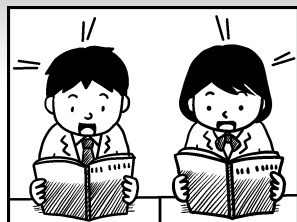
- ・ 各設問に取り組みさせる。
- ・ ペアやクラス全体で答えを確認する。

3rd Reading

- ・ 健のスピーチの要約をノートに書かせる。
- ・ ペアやクラス全体で答えを確認する。

本文の音読

10分



音読

- ・ 教科書を閉じて、全体を通してCDを聞かせる。
- ・ 音読させる。Chorus reading

まとめ

《宿題》英語の質問を3つ考えさせる。(Writing)

指導 Q & A

Q1. USE Read 全文を、一文一文訳して説明すると時間がかかります。どうしたいのでしょうか。

A1. 訳は読みのポイントだけに絞ります。全文の逐語訳は、時間がかかる上に、USE Readの趣旨からはずれてしまいます。英語を英語のまま理解することが最終目標であるため、訳はあくまでも補助であることを、教師と生徒で共有しましょう。



DAY 2

段階

活動内容

復習

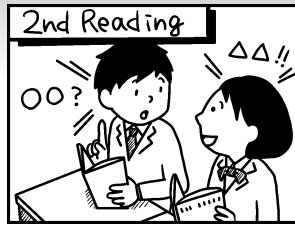
5分

ウォームアップ／前時の復習

- ・前時に学習した語句や表現の復習をさせる。

本文の読解

20分



本文／2nd Reading

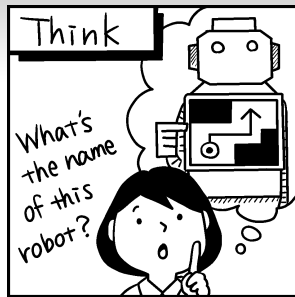
- ・教科書を開き、全体を通してCDを聞かせる。
- ・本文の内容に関して、2nd Readingおよびその他の質問を投げかけ、答えさせる。そして、宿題の質問も生徒に発表させる。

Check (A 代名詞／B 文法の確認)

- ・代名詞が示すもの／不定詞を含んだ文を抜き出させる。
- ・ペアやクラス全体で答えを確認する。

本文の整理

15分

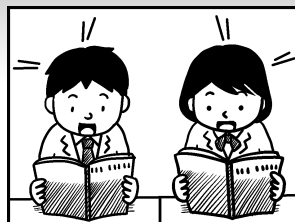


Think

- ・音読させる。Chorus reading
- ・健がスピーチで工夫している点や、スピーチの内容についての質問を考えさせる。
- ・ペアやクラス全体で答えを確認する。

本文の音読

10分



音読

- ・教科書を閉じて、全体を通してCDを聞かせる。
- ・音読させる。

Chorus reading → Buzz reading →

Individual reading

＝留意点＝

- 日本語訳は、新出文法や複雑な文程度にとどめる。
- 訳がないと不安な生徒もいるので、必要に応じて全訳を最後に配布する。

Q2. USE Read の語数が多いです。レッスンが進むと語数が増えていきます。なぜですか。

A2. 高校入試や高校英語で扱われる英文は長文化の傾向。まとまった量の英文を概要・要点をとらえながら読む力が要求されます。USE Read では長文に耐えうる読解力を養います。

Lesson—USE Writeの使い方

1. 特長

- GETで身につけた知識を活用して、書く活動を行います。
- 文章を書く過程を理解したあと、クラスやグループで書く練習をし、最後に自分の力で書きます。
- 記事(ウェブサイト/新聞)・アンケート・エッセイ・手紙・メール・自己紹介カード・要約文など、さまざまなジャンルの英文を配置しています。

2. 指導のヒント, 構成, 補充教材

《指導のヒント》

① スモールステップで文章を書く過程を理解させる

- ・ 文章を書く過程を、モデルを参考にしながら順を追って理解させる。
Step 1「トピック選定」→ Step 2「日本語メモ」→ Step 3「英語メモ」→ Step 4「英文作成」
- ・ 英語の文章構造に繰り返し触れることで、型を身につけさせる。

② 協働学習で実作を体験させる

- ・ クラスやグループでの協働学習を通じて、左ページの活動1(モデル)と同じステップを踏み、実作させる。

《構成》

- 書く手順を視覚的にわかりやすく提示している。
- Opening → Body → Closing の英文構造に繰り返し触れることで、型を身につける。
- クラスやグループで共同組立(ジョイントコンストラクション)を行う。
- 英文作成に役立つ語句表現を例示している。
- Tips for Writingに、まとまりのある文章を書くためのコツを提示している。

The image shows two pages of a worksheet titled 'USE—Write' with the sub-heading '自己紹介の手紙を書く' (Write a self-introduction letter). The left page (page 18) contains a model letter from 'Tanaka Kumi' to 'Crown Flowers' shop. The letter includes an opening, a body paragraph about participating in a 'day-at-work program', and a closing. A table lists key phrases: 'start / learn / skillset', 'many things / learn', and 'look forward / work'. The right page (page 19) is for the student's writing activity. It includes a 'Writing Task' section with a table for 'Opening', 'Body', and 'Closing'. The table has columns for '日本語' (Japanese) and '英語' (English). Below the table, there are 'Tips for Writing' and a 'Writing Example' section showing a student's letter.

★補充教材

- USE Writeのワークシート(教師用指導書ワークシート集・指導用データ資料DVD-ROMに収録)

3. 授業展開例 (2年Lesson 6—USE Write)

DAY 1

段階

活動内容

プレ活動

9分



ウォームアップ／前時の復習／プレ活動

- ・GETの健の職場体験の流れについて振り返る。
※自分たちの経験を振り返ってもよい。

モデルの
確認

21分

活動1

- ・Step 2の日本語のメモとStep 3の英語のメモの意味を確認し、メモをマッチングさせる。
- ・Step 4の英文をCDについて音読させる。
- ・Step 3の英語のメモとStep 4の英文を照らし合わせながら、構成を分析させる。
- ・内容や構成について工夫がされている点を発表させる。

グループで
手紙を書く

20分



活動2 / まとめ

- ・グループで、職場体験先や自己紹介の内容を話し合い、日本語、英語のメモを作らせる。
- ・メモをもとに、グループで話し合いながら英文を作らせる。

DAY 2

段階

活動内容

復習

15分

ウォームアップ／前時の復習

- ・前時にグループで話し合いながら作った英文を発表させる。
※発表のメモを取らせ、発表後に質問させる。

個別で
手紙を書く

30分



活動3

- ・生徒ひとりひとりに英文を書かせる。
※Idea Boxや付録『いろいろな単語』を活用させる。

まとめ

5分

まとめ

- ・活動を振り返る。

Lesson—USE Speak **発表** の使い方

1. 特長

- GETで身につけた知識を活用して、話す活動を行います。
- スピーチやプレゼンテーションの活動を行います。
- さまざまなトピックについての意見や考えを、聞き手に効果的に伝える練習をします。

2. 指導のヒント、構成、補充教材

《指導のヒント》

① スモールステップで文章を書く過程を理解させる

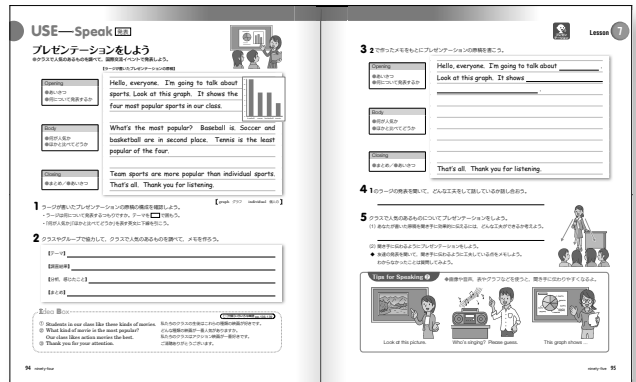
- ・タスクを通して、自分の意見や考えを効果的に伝えるにはどうしたらよいかを考えさせる。
- ・USE Writeと同様に、典型的な英語の文章構造に繰り返し触れ、型を身につけさせる。

② 「話すこと」の活動に時間をかける

- ・原稿作りは、モデルの英文やIdea Boxを活用し、なるべく時間をかけないようにする。
- ・発表のモデルを聞いて、音声面の工夫について気づかせ、自分の意思や考えを効果的に伝えることを意識しながら発表の練習をさせる。

《構成》

- USE Write で扱った、Opening → Body → Closing の流れに沿った構成のモデル文を提示している。
- Guided Writing で、効率的に発表の原稿が作れる。
- プレゼンテーションやスピーチなどの発表に必要な工夫に気づかせ、取り入れさせるタスクを配置している。
- Tips for Speaking で、発表するときのコツ（ジェスチャーや姿勢など）を提示している。



★補充教材

- USE Speak のワークシート(教師用指導書ワークシート集・指導用データ資料DVD-ROMに収録)

3. 授業展開例 (2年Lesson 7—USE Speak)

DAY 1

段階

活動内容

プレ活動

6分

ウォームアップ／前時の復習／プレ活動

- ・メイリンの調査と発表について振り返る。

モデルの確認

7分



活動1 ・原稿のCDを聞かせ、その後音読させる。
 ・Opening, Body, Closingと各見出しを手がかりに、原稿の内容と構成を確認させる。

調査活動

20分

活動2 ・クラスやグループで、テーマを決め、クラス内でアンケート調査を行う。
 ・結果を、グラフや表、メモにまとめさせる。

原稿作成

17分

活動3 ・Opening, Body, Closingの構成と、各見出し、OpeningとClosingの英文を確認させる。
 ・グループまたは生徒各自で英文を書かせる。
 ※Idea Boxや付録『いろいろな単語』を活用させる。

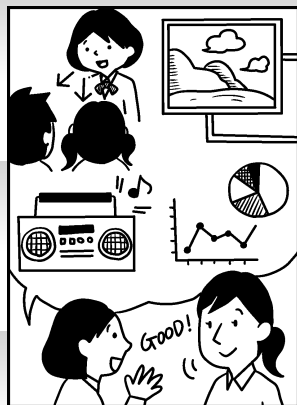
DAY 2

段階

活動内容

復習

5分



ウォームアップ／前時の復習

- ・前時で作成した原稿を確認する。

モデルの発表の確認

15分

活動4 ・発表のCDや映像を視聴させる。
 ・どんな工夫がされているか、グループで話し合い、グループごとに工夫点を報告させる。
 ・再度発表を聞き、工夫点を確認させる。

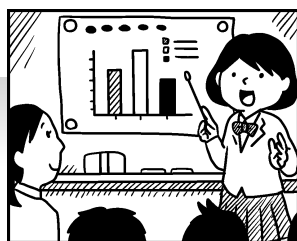
発表の工夫を考える

5分

活動5(1) ・ラーズの発表の工夫を手がかりに、工夫点を考えさせ、メモにまとめさせる。
 ・Tips for Speakingを確認させる。

発表

25分



活動5(2)／まとめ

- ・生徒各自で練習したあと、ペアになって、聞き手に効果的に伝わるように繰り返し練習させる。
- ・グループやクラス内で発表させる。

Lesson—USE Speak **会話** の使い方

1. 特長

- GETで身につけた知識を活用して、話す活動を行います。
- ことばの機能を意識した、やりとりの活動を行います。
- 日常的なトピックを扱い、タスクを通して、会話を続けたり、広げたり、深めたりする工夫に気づかせます。

2. 指導のヒント, 構成, 補充教材

《指導のヒント》

① 会話を続けることがねらい

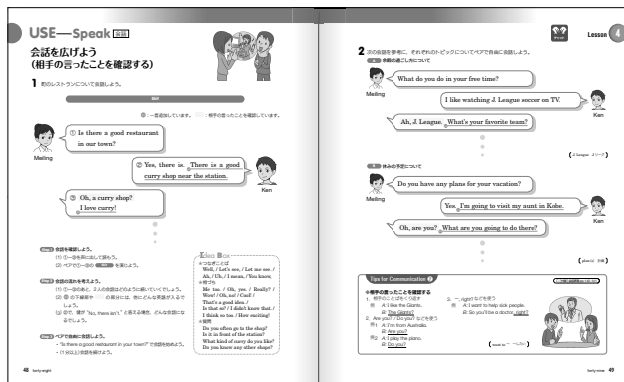
- ・ どんなトピックであれ、確認する表現を意識しながら、会話を広げていくことが目的である。
- ・ 日頃から、ウォームアップやGETのPracticeの2 (Speak) で練習するとよい。

② 会話のつなぎ方を意識させる

- ・ 「このあとどうつなげるか」「別の流れだとどんなことを言うか」など、自分なら会話をどう続けていくか、考えさせる。

《構成》

- タイトルに、ねらいとなることばの機能や使い方を提示している。
- モデル文は会話の始めだけを提示している。
- 会話のつなぎ方を意識させるタスクを用意。言い換えの語句や、会話の続きを考えさせる。
- 自分たちで、即興で話す活動を行う。
- Tips for Communicationで会話の続けるためのコツ（ことばの機能や表現など）を提示している。
- Idea Boxの他、巻末の付録『会話表現』を活用し、会話を続けさせる。



★補充教材

- USE Speakのワークシート(教師用指導書ワークシート集・指導用データ資料DVD-ROMに収録)

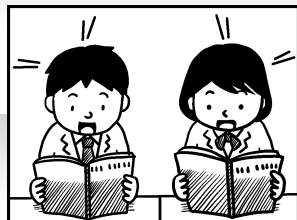
3. 授業展開例 (2年Lesson 4—USE Speak)

段階

活動内容

プレ活動

6分



ウォームアップ／前時の復習／プレ活動

- ・GETのエマと丘先生の会話を振り返る。

モデルの確認

5分

活動1—Step 1

- ・Skitの音声をCDで聞かせる。
- ・CDの音声に続き、気持ちを入れて音読させる。
- ・ペアになって、Skitを演じさせる。

会話練習

8分



活動1—Step 2

- ・ペアまたはグループになり、Skitの続きについて話し合わせる。
- ・一言追加する英文や相手に言ったことを確認する英文を考える。また、質問に対し、“No”と答えたあとの会話について話し合わせる。
- ※Idea Box, Tips for Communication, 付録『会話表現』を活用させる。

会話の流れ
を考える

8分

活動1—Step 3

- ・ペアになって、“Is there ~?”で始まる会話続けさせる。
- ※Idea Box, Tips for Communication, 『会話表現』を活用させる。

別の
トピックで
会話練習

22分



活動2 (A 余暇の過ごし方／B 休みの予定)

- ・Skitの音声をCDで聞かせる。
- ・一言追加する英文や相手に言ったことを確認させる。
- ・CDの音声に続き、気持ちを入れて音読させる。
- ・ペアになり、Skitを演じさせる。
- ・ペアになり、休みの予定について会話をさせる。
- ・相手を替えて、会話をさせる。
- ※Idea Boxや付録『いろいろな単語』の活用。

まとめ

1分

まとめ

- ・活動を振り返る。

Let's Listenの使い方

1. 特長

- 天気予報、ニュース、空港でのアナウンスなど、オーセンティックな場面の中で聞く活動を行います。
- ねらいを明確にした聞く活動を通して、リスニングの力をつけます。

2. 指導のヒント、構成、補充教材

《指導のヒント》

① 聞き取りのねらい

- ・聞き取りのねらいを3種類に分け、ねらいごとに、タスクの構成や内容を変えている。

「聞き手が必要な情報を聞き取る」

「話し手が伝えたいことを聞き取る」

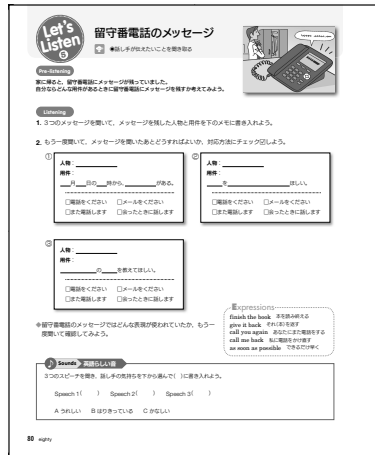
「話の全体的な内容を聞き取る」

② チャンクで聞き取り

- ・内容を理解したあと、もう一度聞いて聞き取った英文の語句や表現を、チャンクで理解するように意識させる。

《構成》

- タイトル下の●に、各単元に設定された3種類の聞き取りのねらいを提示している。
- Pre-listeningで、内容についての背景知識を活性化させる。
- Listeningの音声には効果音を入れ、より実生活に近いものを用意している。
- Expressionsで、音声の中で使われている大切な語句・表現を提示している。
- Soundsではイントネーションやアクセント、リズム、音の変化や脱落などが学べる。



★補充教材

- Let's Listenのワークシート(教師用指導書ワークシート集・指導用データ資料DVD-ROMに収録)

3. 授業展開例 (2年Let's Listen 5)

段階

活動内容

プレ活動

6分

ウォームアップ／前時の復習／ Pre-listening

- 留守番電話にメッセージを残す側の状況とメッセージの内容について考えさせる。

リスニング
(人物と用件)

12分



Listening 1

- 空欄のメモの項目内容を確認させる。
- 留守番電話のメッセージのCDを聞き、それぞれのメモに、メッセージを残した人物と用件を書き込ませる。
- クラス全体（またはグループ）で答えを出し合わせる。
- 再度聞き、答えを確認する。

リスニング
(対応方法)

12分

Listening 2

- 留守番電話のメッセージのCDを聞き、それぞれのメモに、対応方法にチェックさせる。
- クラス全体（またはグループ）で答えを出し合わせる。
- 再度聞き、答えを確認する。

表現の確認

15分



留守番電話のメッセージ中の表現の確認

- Expressionsの語句・表現のCDを聞き、意味を確認させる。
- 留守番電話のメッセージのCDを聞き、実際に使われているExpressionsの語句・表現を確認させる。
※スクリプトを配布し、文字を見ながら確認させてもよい。

Sounds

5分

Sounds / まとめ

- 英語らしい音を確認し、練習させる。

Let's Talkの使い方

1. 特長

- 場面とはたらき（機能）を軸に、日常生活における会話の活動をします。
- 「買い物」「電話」「道案内」は、3年間を通して扱います。

2. 指導のヒント、構成、補充教材

《指導のヒント》

① 日常生活でよく用いるはたらき

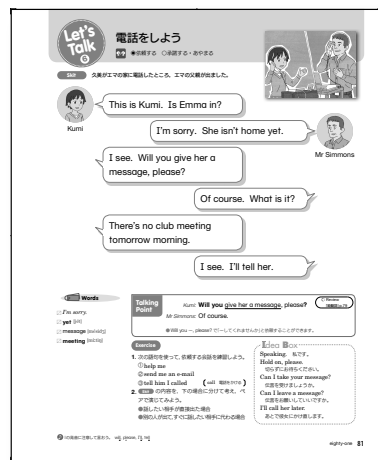
- ・場面に応じたはたらきを、バランスよく配置している。
あやまる／時間や場所をたずねる／依頼する／理由をたずねる／許可を求める など

② Talking Point を軸にした会話練習

- ・USE Speak **会話** の「即興で話す活動」ではなく、「ターゲットとなる表現を用いた話す活動」になる。
※会話の英文（Skit）は本文扱いで、新出語句（Words）があることに注意する。

《構成》

- 場面とはたらきを提示している（●はTalking Point 該当のはたらき，○はサブポイントのはたらき）。
- 身近なトピックでのSkit（会話の本文）。
- Wordsで新出語句を提示。
- Talking Pointで会話の中でターゲットとなる表現を確認する。
- Exerciseで、Talking Pointを活用した置き換え練習とSkitづくり。



★補充教材

- Wordsのワークシート(指導用データ資料DVD-ROMに収録)
- Let's Talkのワークシート(教師用指導書ワークシート集・指導用データ資料DVD-ROMに収録)

3. 授業展開例 (2年Let's Talk 6)

段階

活動内容

本文の導入

6分



ウォームアップ／前時の復習／本文

- ・場面を確認させ、本文を聞かせる。
- ・聞いてわかったことを発表させる。
- ・もう一度本文を聞かせ、内容を理解させる。

ターゲットの
導入・練習

12分

Talking Point／Exercise 1

- ・CDを聞かせる。
- ・解説し、意味やはたらきを確認させる。
- ・CDに続き、音読させる。
- ・ペアになり、Talking Pointの役割練習をさせる。
- ・Exercise 1で、Talking Pointの置き換え練習をさせる。

語句の
導入・練習

5分



Words

- ・新出の語句や表現の意味を確認させる。
- ・新出の語句や表現の発音練習をさせる。

本文音読と
役割練習

12分



本文 (Skit)

- ・教師のモデルリーディングを聞かせる。
- ・音読させる。
Chorus reading → Pair reading →
Read and look up
- ・何組かのペアに発表させる。
※生徒の実態に応じて、教科書を見させたり、
暗唱させたりする。

Skitづくり

15分

Exercise 2 /まとめ

- ・ペアになって、Skitを考えさせる。
- ・つくったSkitで役割練習をさせる。
- ・相手を替えて、役割練習をさせる。
※Idea Boxを活用させる。

Projectの使い方

1. 特長

- 複数の技能を統合的に活用した、プロジェクト活動を行います。
- 学年に3回、学んだことの集大成として活動に取り組みます。
- 複数の技能を統合的に駆使して、課題に取り組みます。

2. 指導のヒント、構成、補充教材

《指導のヒント》

① 知識と技能の力だめし

- ・2～3レッスンごとに、それまでの言語材料の知識や培った技能の力だめしができる。
- ・3年間でバランスのとれたテーマ設定（「自分」「自分以外の人」「ものや場所など」）。

テーマ	1年	2年	3年
自分	P1 自己紹介をしよう	P2 自分の夢を紹介しよう	P3 ディスカッションをしよう
自分以外の人	P2 友達にインタビューをしよう	P1 有名人を紹介をしよう	P1 先生にインタビューをしよう
ものや場所など	P3 大切なものを紹介しよう	P3 自分の町を紹介しよう	P2 日本文化を紹介しよう

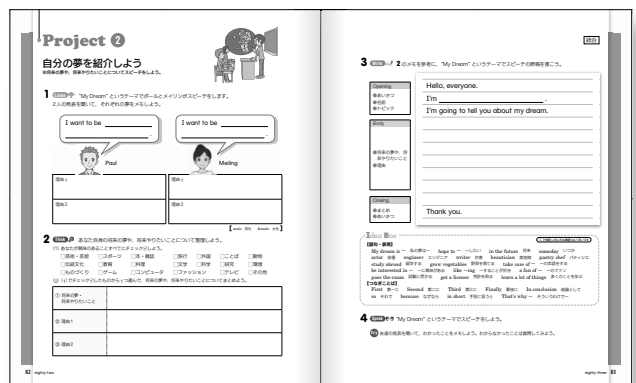
P1 : Project 1 / P2 : Project 2 / P3 : Project 3

② 統合的な活動とアクティブラーニング

- ・「聞く→話す」「読む→話す→書く」といった複数の技能を統合的に活用した活動をする。
- ・アクティブラーニング型の授業展開で、技能統合型の大きな活動に取り組み、課題解決力をつけさせる。

《構成》

- 複数の技能が統合されている。
- Thinkでは、アイディアマップなどの手法で、自分の考えやアイデアを整理する。
- Idea Boxに、活動で使える語句・表現を提示している。



★補充教材

- Projectのワークシート(教師用指導書ワークシート集・指導用データ資料DVD-ROMに収録)

3. 授業展開例 (2年Project 2)

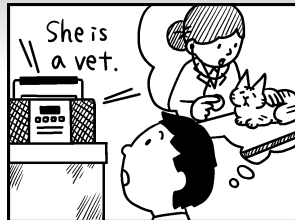
DAY 1

段階

活動内容

聞く活動

15分



ウォームアップ／前時の復習／振り返り／

1 Listen 🎧

- ・CDを聞かせ、2人の夢についてメモを取らせる。
- ・ペアやクラス全体で答え合わせをさせる。
- ・メモを見ながら、もう1度、CDを聞かせる。
- ・スクリプトを配布し、音読をさせる。
- ※スピーチの構成について説明する。

考える活動

5分



2 Think 🧠

- ・将来の夢ややりたいことをまとめさせる。

書く活動

30分

3 Write 📝 / まとめ

- ・自分のスピーチの原稿を書かせる。
- ※Idea Boxや付録『いろいろな単語』を活用させる。
- ・ペアで読み合わせ、そして問題点を確認し合う。
- ・原稿を提出させる。(教師添削)

DAY 2

段階

活動内容

音読

5分

ウォームアップ／前時の復習

- ・1 Listen 🎧 のスクリプトの文を音読させる。
- ※シャドウイングやRead and look upなどで、スピーチを意識した読み方をさせる。

スピーチの練習

10分

3 Write 📝 一原稿の確認と音読練習

- ・原稿(添削済み)の内容を確認し、各自で練習したあと、ペアになり、聞き手に効果的に伝わるように繰り返し練習させる。

スピーチの発表

35分



4 Speak 🗣️ 一発表(グループとクラス)／まとめ

- ・グループ内で1人ずつ発表させ、代表者を決める。
- ・クラス全体に向け、グループ代表に発表させる。
- Try: 発表のメモを取らせ、発表後に質問させる。

●NEW CROWNサポートダイヤル TEL (03) 3230-9556

- ・教科書、指導書、付属教材などに関するご質問に、電話でお答えいたします。
- ・受付時間 月～金曜日 10:00～17:00 (土・日曜日、祝日は休みです。)

●NEW CROWN公式サイト

- ・授業に役立つさまざまな情報やサポート資料をご用意しております。
- ・お問い合わせフォームがあります。教科書、指導書、付属教材などに関するご質問に、メールまたは電話でお答えいたします。
- ・先生のための会員制ウェブサイトを開設しました。

28 NEW CROWN

検索



平成28年度版
NEW CROWN
ENGLISH SERIES New Edition

学校の先生向け
教科書サポート
三省堂プラス

お知らせ
・2016.07.20 NEW CROWNとHi, friends! についての資料をダウンロードできます。
・2016.04.01 「年間指導計画」「評価規準一覧」「CAN-DOリスト」をダウンロードできます。

『NEW CROWN』基本情報

- NEW CROWN 紹介動画
- 教科書のポイント
 - ◎ 学びのプロセスを重視したレッスン構成
 - ◎ 生徒の自立した学習を促す工夫
 - ◎ 小学校外国語活動とのスムーズな接続
 - ◎ 多様な題材
- 内容解説資料

各種資料

- ペンマンシップ 補充ワークシートNEW
- 三省堂中学校英語ワークシート
- USE Read指導のヒントと実践例
- 小中連携についてNEW
- CAN-DOリスト作成のヒントと実践例
- 中学校 英語で授業ここがポイント
- アクティブ・ラーニングでつなぐ NEW CROWN

学習指導計画作成のために

- 年間指導計画
- 評価規準一覧
- 移行措置資料
- CAN-DOリスト

指導書・教材・生徒用教材 (学校採用品)

生徒用教材 (店売品)

『NEW CROWN』デジタルテキスト

サポート書籍

中学英語いつ卒業？
中学生の主体的学習プロセス

新刊

英語教師のための情報誌
TEACHING ENGLISH NOW Vol.132
英語教育、次の時代へ

◎ 教科書の購入について ◎ 拡大教科書見本 ◎ お問い合わせ



三省堂

〒101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14 TEL (03)-3230-9411 (編集)・9412 (営業)

●大阪支社

〒530-0002 大阪市北区曾根崎新地2-5-3 TEL (06)-6341-2177

●名古屋支社

〒460-0008 名古屋市中区栄3-25-43 TEL (052)-252-9211・9212

●九州支社

〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-1 TEL (092)-531-1531・1532

●札幌営業所

〒060-0042 札幌市中央区大通西15-2-1 ラスコム15ビル3F TEL (011)-616-8722